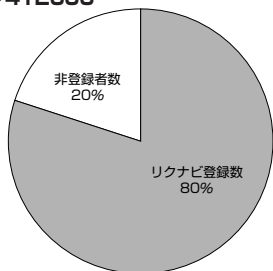


第4章 情報サービス

就職

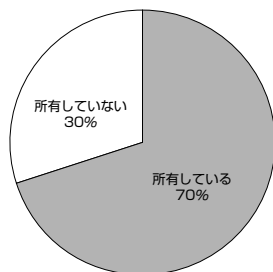
新卒ほぼネットに移行、転職は紙メディアも活用

資料2-4-12 新卒者に占めるリクルートナビ登録者の割合(2000年3月卒)
N=412000



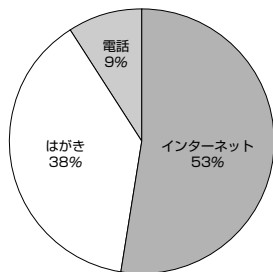
出所 「第16回 大卒求人倍率調査」(リクルートリサーチ)を元に作成

資料2-4-13 就職活動中の学生のメールアドレス所有率
N=301078



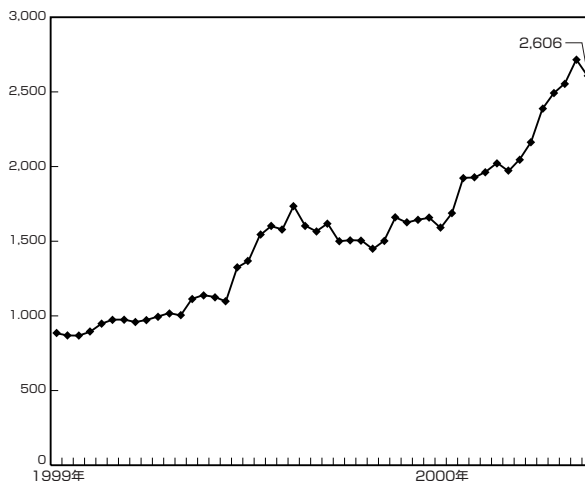
出所 「2000.3卒 就職プロセス調査」(リクルート)を元に作成

資料2-4-14 学生1人当たりの資料請求・エントリー方法の比
N=301078



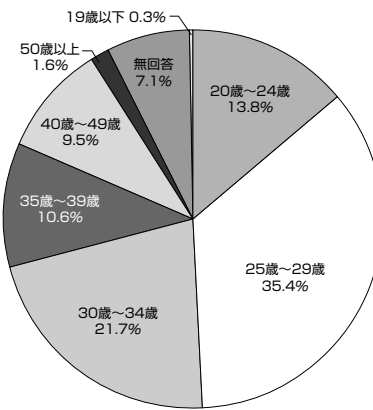
出所 「2000.3卒 就職プロセス調査」(リクルート)を元に作成

資料2-4-15 Digital B-ingに掲載される求人職種数推移



出所 「Digital B-ing」(リクルート)の資料を元に作成

資料2-4-16 Digital B-ing利用者年齢比 N=895



出所 「Digital B-ing 利用者アンケート(9911~0001)」(リクルート)の資料を元に作成

解説

大学生・大学院生向けの就職情報サイトでトップシェアを持つリクルートの「リクルートナビ」^{Jump01}には、2000年3月卒業予定者のうち、民間企業へ就職を希望する学生41.2万人の約8割が登録し(資料2-4-12)、2001年卒ではほぼ100%が登録している。この登録自体は電子メールを持たないユーザーでも登録可能だが、2000年3月予定者のうち、70%がアドレスを所有しており、その浸透度合いがわかる(資料2-4-13)。また、資料請求やセミナーエントリーは53%がインターネット経由となっている(資料2-4-14)。これは人気企業の多くがインターネットでの受付に移行したのが主な要因であるが、学生の就職活動にインターネットは不可欠のようだ。

転職市場においても、インターネットの利用が急速に進んでいる。リクルートは1996年4月より「Digital B-ing」^{Jump02}というサイトを運営しているが、1999年に入ってから掲載される求人職種数は急速に伸びており、2000年に入ってから2500件を超えるようになった(資料2-4-15)。その職種・業種とも幅広くなってきた中で、ユーザーの年齢層も広がっている(資料2-4-16)。

しかし一方では紙メディアである『ビーイング』や『テックビーイング』の求人件数も増えており、転職のマーケットにおいては今後も双方のメディアが共存していく見通しだ。

(藤本健 株式会社リクルート)

^{Jump01} <http://www.isize.com/RN/>

^{Jump02} <http://job.met.or.jp/DB/>



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp